

# ウポポイ について考えよう

---

北海道大学 大学院 教授 ジェフ ゲーマン

アイヌ政策検討市民会議主催 シンポジウム

2020年8月2日 札幌市教育文化会館にて

# 五つの改善すべき点

---

ビジョンの大切さ

生きた文化・知識  
体系

アイヌの自治・  
自己決定

過去をきちんと向  
き合えることにより  
現状を把握す  
る必要性

未来へ向けた提  
案

# ① ビジョンの大切さ

---

- ▲ 1) 地球の未来を見据えた視点をとらないことによる機会の損失
  - 先住民族の知恵・哲学・生き方の価値を見直す世界的な関心に背をそむいているのでは
  - 「アイヌにとって良いことは北海道にとって良いことだ」 ( ‘What’s good for Maori is good for New Zealand’ )
- ▲ 2) 国際的な人権水準を追わないことによる機会の損失
  - 世界の先住民族が置かれている状況を鑑みれば、アイヌの歴史の負の遺産の側面を無視してはならない。

## ② 先住民族の社会が**生きた文化・知識体系**

---

▲ 1) A museum is a place where a culture goes to die (「博物館とは死にゆく文化の行くところである」という表現を具現化する運命にないことを祈る

◦ 「**一人の古老の死は図書館一つが全焼するに等しい**」文化の危機の視点の欠如

▲ 2) 先住民族トライブの発展ー土地に密着した知識体系の視点が見えてこない点にとらえる為政者の想像力、努力の欠如

# 先住民族の土着の知に基づいた文化継承の課題

1. **土地に密着した知識体系** 自然環境との密接な関係性に基づき、それに最適な生活様式を保つための知識と習慣を有する文化集団
2. 植民地化や国家成立の過程において、学校教育に代表されるような制度により、その伝統的な知・言語は否定され、あるいはしばしば衰退させられた。
3. しかし、**現在のグローバル主流社会に生きていくため**、そして主流社会の人々に**先住民族の存在やニーズを訴えるため**、「現代の知」も必要であり、今日の先住民族の多くは近代的学校教育も望んでいる。
4. そこで、自分たちの固有の言語や知識体系を守りつつ、近代の学校教育との関係をいかに調整し、二つの知識体系の間に適合性をもたせられるかが課題である。

## ② 先住民族の社会が生きた文化・知識体系(つづき)

---

- ▲ 3) 持続可能性の視点が欠如しているのでは「アイヌ文化復興の拠点」ってありえない
  - ・経済的な基盤、**経済と自然環境と文化の密接な関係性**  
畠山さんの活動
- ▲ 4) 「アイヌ社会」復興の拠点の視点の欠如
  - ・**アイヌ出身の弁護士、医者、学者**を育成する可能性？
  - ・国際的な連携と協力(例えば日露)によりあり得る可能性に目をつむっている(比較事例: アラスカ、アラスカ大学の取り組み)

## ③ アイヌの自治・自己決定の重要性

---

### ▲ 1) アイヌ政策全般における多様なアイヌの声を反映させる 重要性

- ・多様な参画が国際法により義務付けられている
  - ・ 設立の経緯—多様なアイヌの声が反映されない構図の縮小

図

### ▲ 2) 海外では先住民族博物館は先住民族自身の手により 管理・運営されるもの

- ・ National Museum of the American Indian, Siida (フィンランド)

## ③ アイヌの自立・自治・自己決定の重要性

---

### ▲ 3) ウポポイ・象徴空間における管理・運営が不透明

- アイヌ施策推進法に向けた、新法策定における要望の却下
- 施設が文科省と国道交通省の管轄
- 運営母体が「アイヌ民族文化財団」—アイヌがメンバーの中にいるだけではアイヌの声は反映されるとは限らない。
- 「慰霊施設」の説明不足に翻弄されつづけるアイヌの姿

### ▲ 4) 白老以外の地域との連携

## ④ 過去をきちんと向き合えることにより 現状を把握する必要性

---

▲ 1)「近代化の過程でアイヌ民族は貧窮に追いやられたことを鑑みて、日本政府は重大な責務を負う」(有識者懇談会報告書)の視点の行方は？

・「歴史的修正主義」—歴史に対する反省なしでは、交付金等はバッシングの対象となる

・「国民的理解の深まりに伴い、将来はより実質的な権利が実現可能になるかもしれない」有識懇談会のビジョンが台無しに？

▲ 2) 忠太半端な反省では足りない 前へ向くために過去をきちんと見つめる条件 修復と癒し無しでは「共生」はありえない

・現在のアイヌの生きた経験を看過している一子ども時代に差別を受け、傷が治らない方々、樺太への帰還を夢見るアイヌ

## ④ 過去をきちんと向き合えることにより 現状を把握する必要性

---

### ▲ 3) 従来の政策の欠点を反省した発展的なビジョンの欠如

- ・謝金制度により、アイヌの魂の形骸化につながった1997年「失敗に終わった」と批判を受けた「文化振興法」の延長線にあるという批判
- ・過剰な期待の後ろに見え隠れする危険性
- ・文化振興法以降なお続く卑下の心「どんぶりをひっくり返した」ようには変わりはない
- ・文化振興法以前、アイヌ内部にあった「観光アイヌ」に対する批判。アイヌ民族内部の分断を深めかねない。
- ・施策推進法の下では、今後の文化行政はどうなるのか？より制約されたものにならないのか？

## ⑤ より大きな未来へ向けたための提案

---

- ・ 以上を踏まえれば、民族博物館、象徴空間は良い方向に発展する可能性のある施設である
- ・ 博物館と大学の連携に基づいた「知識体系」復活の可能性に関する研究